

わがまち再発見!!

シリーズ 文化財の紹介

対馬市教育委員会 文化財課
0920(54)2341

ロシア軍艦芋崎占拠事件

今から約150年前の幕末・文久元年(1861)の2月、ロシア軍艦ポサドニク号が美津島町尾崎浦に侵入し、約半年に渡り芋崎を占拠する事件が発生していたことをご存じでしょうか。

テレビで幕末を題材としたドラマを見ると、その舞台となるのは坂本龍馬などが活躍した京都や長崎などが中心です。

実はドラマで描かれることは少ないですが、幕末の外交交渉において「対馬」が大きな舞台となっていた事件があります。

文久元年の2月3日、函館から長崎に向かっていたロシア軍艦ポサドニク号が「船が破損したため、修理をしたい」と申し出て、浅茅湾の尾崎浦に停泊しました。対馬藩の役人は、ロシアとの軍事的衝突を回避するため「船の修理のための一時的な滞在は許可する」と回答しつつ、幕府に連絡し、緊密な連携を取る態勢

を整えます。

しかしながら、この許可を口実にポサドニク号側は乗組員を上陸させて木を伐採したり、上陸した芋崎に宿舎・石積みの波止場・井戸・家畜小屋を建設したりするなど、半恒久的な滞在環境を整え始めてしまします。

さらに浅茅湾内をボートで乗り回り、測量まで始めます。また4月12日には大船越瀬戸の役人と衝突を起こし、対馬藩の武士を殺害するという事件まで起こしてしまします。

こうしたロシアの行動の背景には、当時東アジアを巡り対立していたイギリスよりも、軍事上で優位に立ちたいという思想があり、対馬はまさにその思想を左右する重要な地点だったのです。

この当時は、幕末の「開国か攘夷か」という二つの考え方が対馬にまで波及している時期であり、当然対馬藩の内でも強硬意見と慎重意見が対立する事態に陥ります。

また、事態の收拾のために幕府から派遣された外国奉行

小栗上野介忠順でさえも、ロシア側へ退去を要求しながらも、藩主への謁見を許可するという、難しい外交交渉を強いられる姿が見取れます。

事件そのものは、侵入から約半年が経過した7月にロシアと対立するイギリス軍艦が浅茅湾に入り、ポサドニク号と交渉して退去させることで幕を閉じました。

「開国か攘夷か」と国論を二分し、かつロシア・イギリスという当代随一の大国に挟まれる形となった対馬藩の役人たちの苦悩を遠くに思いながら、まだまだ寒風が吹いてはいますが、芋崎まで足を伸ばしてみたいかがでしょうか。



芋崎灯台 写真提供:豊玉高校写真部

つしま図書館情報

つしま図書館 ☎0920(52)3900

3月の休館日

休館日

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

●図書館の本が眠っていませんか?

ご自宅に返却されていない本がありませんか? これからの時期、引越し等で対馬を離れる方は特にご注意ください。

●寄贈本をお願いしています!

購入したけど、もう読まなくなった本はありませんか? 譲ってくださる方は図書館までご連絡ください(状態の良い本、対馬の郷土資料など)。

今月のおすすめ新着本

一般書	『ノボさん 小説正岡子規と夏目漱石』 伊集院 静/著 明治20年、ペーすばーに夢中の青年、子規は、東大予備門で漱石と運命的な出逢いを果たす。生命をかけた文学への挑戦。夢の中を走り続けた2人の姿を描いた青春小説。	『「甘えさせ上手」なお母さんがやっていること』 PHPのびのび子育て/編 子どもの「困った行動」。それは「甘えたい」欲求なのかも? 上手に甘えさせることができれば、子どもはのびのびと育っていく。親も子どもも幸せになる方法を紹介。	『1分収納』 学研編集部/編 頑張らず、マネするだけ、できるところからでOK。「収納って苦手!」「片付けて面倒」という人のために、すき間時間にできる収納アイデア365を紹介している。
	『江戸のお店屋さん』 藤川 智子/著 江戸時代のお店、小間物屋、業種屋、地本問屋、唐物屋、湯屋、ぼてふり。さあ、タイムスリップして、お買い物へ出かけましょう!	『黒田官兵衛(日本の歴史戦国人物伝)』 加来 耕三/監修 軍師として数々の知略を発揮し、高松城攻めや中国大返しを成功させた黒田官兵衛の人生を、マンガでわかりやすく描く。	『謎の海底サメ王国』 NHKスペシャル深海プロジェクト取材班/著 富士山のふもとの海には、「深海ザメの王国」があった。水中で世界初撮影した様子を写真で紹介する。

児童書